

会 議 録	
会 議 名	令和 7 年度第 1 回丸亀市社会教育委員の会
開 催 日 時	令和 7 年 6 月 18 日（水）14 時 00 分～15 時 30 分
開 催 場 所	マルタス ROOM4
出 席 者	出席委員 高橋 勝子・大村 隆史・藤田 裕子・塩田 康広 中俣 保志・白川 常俊・金澤 泰宏 欠席委員 久米井 直人・倉田 眉貴子・宮武 恵美子 傍聴人 なし 事務局 村尾課長・林副課長・白石担当長・藤本主事
協 議 案 件	議 事 (1) 第 4 次丸亀市生涯学習推進計画の進行管理について (2) 第 5 次丸亀市生涯学習推進計画のアンケートについて 報 告 (1) 令和 8 年丸亀市二十歳の成人式について (2) 令和 7 年度丸亀市民学級ほか
配 布 資 料	【資料 1】第 4 次丸亀市生涯学習推進計画進行管理表（令和 6 年度） 【資料 2】第 5 次丸亀市生涯学習推進計画のアンケートについて（案） 【追加資料】第 5 次丸亀市生涯学習推進計画策定スケジュール（案） 【資料 3】令和 8 年丸亀市二十歳の成人式について 【資料 4】令和 7 年度丸亀市民学級パンフレットほか
事務局	本日は大変お忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。 これより、令和 7 年度第 1 回丸亀市社会教育委員の会を開会いたします。 まず初めに 4 月の人事異動により事務局に変更がありましたのでお知らせします。 生涯学習担当田村が異動し、後任が藤本となります。 本日、久米井委員、宮武委員はご欠席です。白川委員は遅れて来られます。 本日の会議は 10 名の委員の内、6 名の委員にご出席いただいておりますので、丸亀市社会教育委員の会に関する規則、第 6 条第 1 項に基づき、本会が有効に成立しておりますことをお知らせします。 本日の会議につきましては次第に沿って進行させていただきますのでよろしくお願いします。 それでは高橋会長よりご挨拶をお願いします。
会長	皆様、本日はお忙しい中、社会教育委員の会にご出席いただきましてあ

	りがとうございます。振り返れば、私は 2011 年から社会教育委員の会に参加させて頂いており、非常に長く感じています。当初は社会教育が何か全く分からず、市民活動団体で子供たちがすくすく育つ環境を作りたいとがむしゃらに活動していました。 社会教育という言葉は堅苦しいですが、楽しく幸せな人生を送れる機会を社会教育と思えば良いのだと、感覚的に関わってきました。 私自身幸せな人生を送れているのか疑問もありますが、多くの学びを得てきました。今年度からは新しい計画も立てていく場になります。 皆さんも楽しみながら参加し、色々なことにチャレンジして頂きたいと思っています。本日もどうぞよろしくお願いします。
事務局	ありがとうございました。それではただいまから議事に入らせて頂きます。丸亀市社会教育委員会の会に関する規約第 4 条第 1 項により、会長に議長をお願いいたします。
会長	それでは私の方で議事を進めさせて頂きます。本日は議事 2 件、報告が 2 件ございます。最初に、第 4 次丸亀市生涯学習推進計画の進捗状況についてのご説明をお願いいたします。
事務局	(事務局説明)
会長	成果指標一覧表は皆さんに事前にお配りしているんですか。
事務局	今ご説明に使用した資料は、本日皆さんに配布しました。
会長	事前には届いてないんですね。
事務局	本日説明に使用した資料はお送りしていませんが、他課の取組内容も掲載されている一覧表は事前にお送りしています。
会長	ありがとうございます。丁寧の一つ一つ説明していただきましたが、ただいまの説明についてご意見やご質問ございませんでしょうか？
副会長	成果指標の見直しが計画策定時には本当に必要だと感じました。 例えば、1 (2) 市民学級の参加者数の人数と 2 (4) の NPO 講座の連携の提案講座数は、市民学級の中の成果を切り分けて書いているような

	状況だったと思うので、指標の被りにもなるかなと思います。 指標の作りとしてもったいないと感じました。他にもいろんな自主事業をされているけれども、この指標に反映されてない場合もあると伺いました。他の課が実施している様々な事業がちゃんと指標として反映できるよう、被りが出でこないよう目配せしながら設定する必要があると感じました。これが1点目です。 もう1点は、とは言えもう1年間あり、来年度どうするかということが、今回令和7年度事業計画で示されているものなのですが、特にICTの活用、オンライン講座の実施数に関しては、まだ目標値に至っていない中で、令和7年度は計画していませんっていうことが明記されてしまっています。計画上やる必要はもちろんあるのですが、取り組んでみて、実行性がないとか、現実性がないとか、どこに問題があったのか、設定がそもそもおかしかったのか、内容に改善の余地があるのか等、そういった、もう少し掘り下げた分析をした上で、変えていく必要があるかなと思いますが、今回の説明だとそこがうまく汲み取れませんでした。 計画には指標はあるけれども、取り組まないっていう判断であれば、それはそれとしてそういう説明をする必要があると思ったのが2点目です。以上です。
会長	私もそれを感じました。評価が7年度計画に反映、繋がっていないところが出てきているかなと思いました。 7ページで、提案型の講座に関しての企業とか、制度の見直しが必要となっているのですが、同じように、分析を含めた計画への反映っていうのができていない。結局、計画を進めて、前年度の分析をして、評価をしていると感じ取れるので、先にちゃんと評価をした上で計画を見直していくっていうのが必要かなと思います。そのあたりは、事務局としてはどうですか。
事務局	成果指標については目標達成していない部分もあるのですが、事業内容が現実問題として評価できていないところがあります。今年度は見直ししながら実施しているので、今の計画の成果指標に沿った内容で事業ができてない部分があります。 次年度の生涯学習計画を作るにあたって、事業をどのようにしていくのかも継続して考えていますので、アンケートなどでもお話をしますが、それに対応したような事業を実施していきたいと思っています。

委員	私は逆に、成果が出てないけど、大事なことはやろうとしているという理解ではいます。 例えば今日紹介いただいたオンライン講座では、「子育て世代」というキーワードを設定して、その中身がお金と健康の講座という、これ自体は年代構成で見たらターゲティングはいいと思います。 ただ実施の講座の教材と言えればいいか、テーマ設定に関して、どういう経緯でこのテーマにしたのかというのは、今後分析はした方がいい気もしていて、人数が増えた、減ったというのがありますが、結局、行政ですから、行政計画があって、それを実施して、それを評価して、次に回すみたいなことだとは思うんですよ。すごく教科書的ですけど。そうした時に、ターゲティングとしては多分悪くはないけど、この講座のテーマ設定がそれで良かったかどうかは、テーマを決めた時にどのように考えたのかの振り返り含めて、改めて着手する必要があると思います。 決してやろうとしていること自体が無駄なのかということ、そうではない部分もあるんじゃないかなと感じる項目がいくつかありました。 他の方からのご指摘もありましたが、分析の結果を記録に残しておいてほしいなと思います。まなび文化課の皆様が生涯学習の担当になっているのは、長い業務スパンで考えれば、部署の変動でそうなったこともあると思います。しかし、業務として引き続いていくわけですから、どういう分析をしたのか、可能な範囲で記録に残して、引き継ぎをした上で、次の年度に繋げてほしいです。 あと、コミュニティスクールの活動や大学機関のフィールドワークの要請なども良い点を示していますが、うまく声が上がってこない場合、周知が悪いのか、何が悪いのか、これもやろうとしている課題はそれなりの根拠がある気がするのですが、数字に結びつかないとすればそれは何か、分析を聞きたかったです。 新しい生涯学習推進計画が出た時やコーディネーターの講座の時にも話題になったと思いますが、在留外国人が3%以上になっている現状、学校教育についていけない外国出身の方がいる可能性があります。そういうこともこの計画に入ってもおかしくないですし、受け皿がどこになるのかわかりませんが、そういったことが吸収できそうな受け皿が羅列されているようにも感じます。項目自体は決して悪くないのですが、取り組もうとしているテーマ性が気になります。
事務局	分析を十分に行いたいと思います。

会長	オンラインの件ですが、子育て支援団体としては、コロナ収束後、オンラインへの参加率が少ないものの、ニーズはあると思います。 子育てしながら参加できない人もいるので、子育て世代だけでなく、様々な障害がある等、その場には行けないけど学びたい方はいると思うので、対応する支援が必要だと思います。今年度は実施はなしということですか。
事務局	市民学級では実施しない予定です。
委員	今の時代、若い方はオンラインで情報を手に入れようとしています。 参加人数が少ないのは、周知の仕方、打診の程度によると思います。高橋会長さんがされている活動や、子育て広場等、まなび文化課の職員が行かなくても、そこの職員に頼んで、オンラインであることを伝え、一歩踏み込んだ周知の仕方をすればいいのではないかと思いますので、継続してほしいです。
委員	コミュニティでも様々な分野に取り組んでいますが、子育て世代は中々掴みきれませんでした。どうしたら良いか検討していて、実際に母親が集まるというよりは違う方法が必要だと思っていたところで、今回のオンライン講座を知って、すでにやっていたんだと思いました。もっと早く知っていれば宣伝やアピールができたと思いました。 オンライン講座をやるかやらないか別として、城坤コミュニティでは子育ては取り込まないといけないので、重点的に考えています。良い企画があれば一緒にやった方がいいです。単独でやるより、いろんな所とやった方がいいです。17あるコミュニティでも、何かしたいけど、どうやってやろうか？という話が出ていましたので、もっと早く知っていれば良かったという反省があります。実際に保護者が集まる機会は、コミュニティでやろうとしていることの一つに組み込みたいです。
委員	1 番孤立しやすい世代かもしれません。コミュニティセンターにしょっちゅう行くような人達ではないので、いっそネットの方が関わりしろがあるかもしれません。 図書館にはいらっしゃる方もいますが、どう関わりしろを作ろうか難しいです。
事務局	担当の方から、分析ができていないという事ですが、市民学級において、

	周知の方法が各戸広報に織り込んで周知しているという事なので、広報をよく見られるお客様の層と今のニーズがある層が異なっているのだと思います。 市公式のライングループは若い方も入っているようです。そこから導いていくと、オンライン上で完結するハイブリッドの講座をする、リアルでもやるし、カメラ置いて見えるようにし、動画を収めておけば、例えば YouTube 上にアップロードできるようになると、1 回 2 回、そこで参加の機会が増える。だから、オンラインで参加できるような取り組みは、できてないんですけど、簡単にできるはずですよ。 このように方法はあります。なので、そういう意味では先ほど中俣委員がおっしゃったような、お客様の対象とテーマと周知方法と、講座をやる手段。この 4 つがやっぱりきちんと揃えるっていうのが、チャレンジなところもあるかも分かりませんが、いろんな試し方をして、届くような努力をすることに、市として変わりはありません。今年この計画の中には入っていませんが、今からもやれることはあると思います。何らかの方法で取り組んでいきます。
会長	ありがとうございます。よろしくお願いします。
A 委員	会長さんのグループで既にやっていないんですか？ YouTube や Zoom で。
委員	コロナでオンラインが活発になった時から、オンラインの講座をしたりとか、ハイブリッドでやったりとか、色々やっています。
A 委員	Zoom でやっているのは何ですか。
委員	Zoom は会議等が多いです。
A 委員	すでにやっている講座とうまく連携できたらいいですね。
委員	このオンラインの ICT 活用の講座に限らないけど、何か、まだ残りの時間でできるんだったら、今、おっしゃっていただいたような、方法論を示して実験的にやってみるのもいいかもしれませんね。 たまたま今は子育て世代ではこうじゃないかということを行いました。が、集客が難しい世代の事業に関して、今おっしゃったような、市の LINE

	が稼働しているのであれば調整してやってみることはできると思います。
委員	PTA としましても、今学校では、小中でリーバー、幼保ではコードモンなどを活用して端末で情報提供や出欠の連絡をしているので慣れてらっしゃる反面、PTA から以前は紙で出していた運動会等への協力等のお知らせをペーパーレスにしたら、全然来てくれなくなりました。ペーパーとデータが混在している時期。ラインであれば、別の用途でいつも使っているので、お知らせが来たら取りあえず開いてみてくれると思います。 それと、YouTube や Zoom の話もありましたが、若い世代は、隙間時間で情報を見るのが主流となっているので、予定を合わせるのではなく、自分の好きな時間で見られる周知方法は効果があると思います。 A 委員もおっしゃっていましたが、今コミュニティも公式ラインやインスタグラムで情報発信されていると思いますが、登録方法を検討していないと、コミュニティだよりを若い世代が見ているかということ、見えない現状があります。コミュニティがいつ開いているか知らない保護者もたくさんおられます。そのあたりが、今後の検討課題だと思います。
会長	いろんな手法があるので、チャレンジしていくのも大事なかなと思います。事務局も何か手立てを考えていただければと思います。
委員	部活動の地域移行について、学校が受け皿について悩んでいるという話がありましたが、この計画の項目を見ると、どこかの部分で対応できそうな気がします。計画の基本項目は、過去の計画から受け継がれたものがリファインされているので一定の合理性はあると思いますが、合理性の項目を貫く何かみたいなものがあるといいのかなと感じます。
委員	この成果指標で出てくる人材バンク登録者数、地域コーディネーター養成者数、生涯学習クラブ登録団体数など、本来増えるべきところが減っているのが気になるので、このような「人を育てる」という視点の項目をもう少し入れていけば、例えば少年団体の指導者の育成をどんどん図っていったら、部活動につなげる考え方もあるかなと思います。
事務局	この成果指標で出てくる人材バンク登録者数、地域コーディネーター養成者数、生涯学習クラブ登録団体数など、いわゆる結果が全て指標になっている。養成はしても、その後こういう活動ができますよとか、活動に

	繋げていく具体的な行動を促していくところが非常に弱いという認識があります。 一方で、行政の悪いところですが、この成果指標の数字を持ってできているかできてないかという評価をせざるを得ないのは、現実合っていない気がします。 時間が立てば立つほど、本来達成すべき目的から違ってきているような気がするので、去年来ずっと言い続けていますが、対象者である市民の皆様、課題を抱えている皆様の変化をどう取るかということを、難しいですけど、そこを成果の指標にしていきたいと考えています。 例えば生涯学習クラブ登録団体数だったら、310 団体で全然動いてないように見えますが、ここに「新規」登録団体数っていう風に入れば、私たちがどれだけ頑張って学びの場を作り、新しい団体を導いていくような活動ができているかということが分かります。 その取り組みが「新規」というところに現れてきます。ただ「新規」という言葉をつけるだけでも、変化が見えるのかなと思いますので、次期計画の指標も、分かりやすい結果の数字も入れながら、変化が読み取れるような、行動の変化が読み取れるような内容を考えていきたいと思います。 そういった意味では、養成だけをしてダメで、結果、その後どう繋げていくか、活動にどう繋がってきたかっていうことを継続して見ていきたいと思います。
委員	ありがとうございます。余計な話ですが、効果の話をすると、例えば QR コードがあります。どこのサービスでもいいから、市役所で適切な所を選べばいいですが、例えば、私が使っている Bitly というサービスがあって、そこで同じアクセス先でも別の QR コードを発行できるんです。 Bitly の会員になれば、そのアクセス数の統計が全部見られます。私が自分で広報に載せていただく時に、いくらぐらいビューがつくかなと思って、Bitly で丸亀の広報に出しました。そしたら 24 でした。6,000 部ぐらいは刷っていると思いますが、QR コードで読み取ってくれたのは 24。こういう数字が出てくるので、告知の時にそういう手段を使うのもいいかもしれないですね。
会長	興味を示したかどうかというところも分かるので、役立つのではないかなと思います。

委員	ずっとやる必要なくて、どこがメインかなっていう目安にはなりますから。
会長	指標の表し方についても、課長の方からご意見いただきました。他に何かお気づきになった点があればお伺いします。 先ほど、土居保育所を生涯学習クラブの皆さんに使っていただくという説明で、土居保育所の利用室の名前、愛称はなんとおっしゃいましたか？
事務局	まなび舎土居です。
会長	私の事業に「まなび家土器」と、「まなび家郡家」っていう２つの事業があります。それと名前が被るなと思ってお聞きしました。まなびやの「や」は漢字ですか。
事務局	「や」は漢字の「舎」です。よく似ていると後で気づきました。
会長	耳で聞いただけでは、うちの活動かな？みたいを感じるかもしれません。知っている人が思えばですけどね。 それでは後半に入ります。第５次丸亀市障害学習支援計画のアンケートについて、説明をお願いいたします。
事務局	(事務局説明)
会長	説明についての質問やご意見はございますか？
委員	まず意見からですが、問１で性別を聞いていることについて、４と３が逆なのは意味があるのか、表現は他にないのか、という点です。 「どちらとも言えない」「答えたくない」を質問化する意味は何なのか、用語として適切なのかも気になります。 様々な思いを自由に発信できる社会になっているので、意図と違うことが伝わってしまう可能性もあります。ワーディングをもう一ひねりしても良いかもしれません。
事務局	この質問は、男性、女性、どちらにも当てはまらない方など、様々な方を拾い上げたいという思いで載せていますが、表現の仕方は検討します。４と３が逆になっているのも修正します。

委員	参考までにですが、最近の調査では問 1 から問 9 を後半に持ってくるパターンもあります。プライバシーに関わるためです。 1 から 9 の間には、今回必要ないかもしれませんが、外国出身の方や移住者の方に関する情報は欲しいですが、聞き方は考えないといけません。また、大作だなと感じました。私もこういった調査はするんですが、中々回答を書いてくれないこともあります。良い調査だとは思いますが。
事務局	ありがとうございます。文量は丁寧に聞いた分かなり多くなってしまい、抵抗を感じる方もいらっしゃるかもしれません。 それでも、今まで手が届いてなかった方のご意見を聞きたいという思いが強いので、量という形で現れてしまいました。
会長	ケアを必要としている方の質問で、ちゃんとその人の状況と紐づいた質問になっているということですが、状況と、希望されることなどが、ちゃんと見えるような結果になるのはいいと思いました。
事務局	ありがとうございます。そのほかにもいろいろ関連付けて傾向を見たいと思います。
会長	私のほうから 7 ページの間 35 ですが、「放課後子ども教室」なんですけど、正確には「子ども」の「ども」のところが漢字の「共」になると思います。
事務局	修正いたします。
会長	分かりました。ありがとうございます。問 36 の「あなたは地域学校協働活動に参加したいと思いますか？」ですが、「参加」の意味が分かりにくいと思いました。「活動に関わりたい」等のほうが、「参加したい」より、「何らかの形、どういう形でもいいから少しでも関わることができる」というイメージで良いかもしれませんね。
事務局	ありがとうございます。こちらも修正します。
会長	これだけの量の質問のアンケートが来たら、子育てをしている家庭等は回答も大変で、答えてくれない可能性もあると思いますが、少しでも答

	えてくれるための対策はどうか。
事務局	アンケートに答えていただけるよう、前回はなかったオンライン回答を可能にしました。見本のページを見ましたが、スマホ画面で見やすく、ページを何ページかに分けてくださっているので、一度の分量を多く見なくて済むので、ハードルは少し下がったかなと思いました。
委員	郵送ですよ。郵送料も上がっていますから。150 円×3000 枚くらいかかります。どうせやるならたくさん回答してほしいなという思いがあるので。
事務局	今ちょうど市の総合計画のアンケートを実施中ですが、ホームページで誰でも回答できるようになっています。そういう工夫も次回からあったら、配布した人以外からも集められるかと考えています。
委員	確かにそうですね。何か補助線があってもいいですよ。これは今回のアンケートには盛り込む必要はないのですが、私が思っているのは、「1 回でもコミュニティセンター行ったことがありますか？」とか、「小学生が行ったことがありますか？」とか、「生涯学習施設に行ったことがありますか？」といった質問があってもいいかなと思います。
会長	行政、健康課が主催するイベントに乳幼児を連れた親子が足を運ぶのはかなり増えていると思いますが、その間がなかなか工夫がいるんじゃないかなと思います。
委員	若い世代に来てもらうのはなかなか大変ですが、やれることからやっていきたいです。
委員	「コミュニティで学童やっています」というぐらいになれば、認知度は上がると思います。A 委員のコミュニティセンターでは、そういう世代との接点もまだ持っているほうだと思うんですよ。ほかのコミュニティセンターでは中々できていない。
会長	放課後子供教室も各コミュニティがだんだん実施するようになっているので、小学生世代もかなりコミュニティセンターに行くようになっているんじゃないかなと思います。

委員	問 16 の回答ですが、「無回答」は答えたくないという意味ですか。
事務局	そうです。
委員	ほかの質問で「答えたくない」という回答があったので、合わせたほうが良いと思います。
委員	そうですね、合わせた方がいいかもしれませんね。この手の質問には、「どちらとも言えない」を入れることがあります。それをやると「どちらとも言えない」を選択する人ばかりになるんですよ。色んな事情で答えたくない場合があったり、本当にピンとこないっていう人もいますので、「答えたくない」が良いのではないかと思います。
事務局	ありがとうございます。「答えたくない」に統一します。
委員	アンケートの回答期限ですが、7 月 22 日ということで遅れても OK という意味でしょうか？ 普通アンケートだったら必着とか有効期限とかあるんですけど、少し余裕を持つために表現をされたのかなあと思いながら。
事務局	そうです。できるだけ多く集めたいので、余裕を持たせています。ただ、ある程度の期限は示さないと提出もしていただけないので、期限を設けていますが、一応 1 週間ぐらいの余裕は持たせるようにしています。
委員	分かりました。
委員	成人式についてご説明よろしいでしょうか？
事務局	(事務局説明)
会長	公募の方法は広報誌のみですか。
事務局	ホームページや LINE など随時活用します。広報誌だけでは不十分なので、様々な方法で広報した方がいいと思います。前年同様、中学校にも推薦をお願いします。

会長	人数制限はありますか？
事務局	大体 10 人程度が集まっています。
会長	毎年どれくらいの人に参加希望し、中心メンバーはいるのか、人数が足りなくて募集することがあるのか等が知りたいです。
事務局	前年は学校から 30 人ほど推薦があり、実際に参加希望者は 10 数人でした。友達と一緒に参加する人もいました。
会長	以前、成人式のあり方や出席方法、参加者への意見の伝え方等についてアイデアをいただきましたが、これらは成人たちに伝えられますか？
事務局	例年学校からの推薦で実行委員会が結成され、面識のない成人たちが集まって始めるため、打ち解けるまでに時間がかかります。1 月に向けて準備を進めるには、決めなければならないことや準備が多いです。そのため、実行委員会がやりたいことを考えるのではなく、事務局が前年度のやり方を提示するのが現状です。毎年同じことを繰り返すことで、来賓に失礼な状況になったり、大人が早く帰れと言ったり、酒を飲むなど言ったりする状況があります。大人が作ったものを押し付けることで、主体性がない状況になっています。実行委員会で考え方を改める必要があると思います。結果が同じでも、実行委員会で考えるプロセスこそが今の若い人たちに求められることであり、自分たちで何かしようという意識を持たせる必要があります。青年教育の一環として、主体的に関わることができる人材を集めるため、公募に踏み切りました。大人が抱える課題を事前に提示し、考えてもらう機会にしたいと思っています。
会長	ありがとうございます。
委員	以前おっしゃっていた、当日の衣装の件についてはいかがですか？
事務局	繰り返しになりますが、スーツを着なければいけない、綺麗な服を着なければいけないというストレスにより、参加したくないという人が出てこないよう、どうするか考えるための呼びかけはしたいと考えています。そのうえで、実行委員がどう考えてどのような結果を出すかはわかりま

	せんが、結果として同じでも、そのプロセスを経ることが重要なことだと思っています。そして、こういった状況を皆さんに知ってもらう必要があります。この機会を通して、成人する人たちがどのように考え、今回はこういう実施方法になったという情報を伝えられる機会があればいいと思います。 みんなが参加しやすくするための一つの例として、服装についても考えてみたらどうかと提案しようと思います。
委員	いい考えだと思います。中には、もう着物を家族が用意している場合もあると思いますが。
事務局	そこは逆で自由なんです。色んな用意があって、着飾るのも全然 OK です。両方ある状態を若い人たちがどういう風に捉えて、どう表現してくれるかっていうことを期待したいと思います。
委員	最近の卒業式ですが、豪華な人はいるけど、豪華じゃない人も増えてきているかなとは思いますが。まだ多数派ではないですけどね。逆に今まで服装で入りづらいということが具体的にあったんですかね？若い方々からクレームがあったとか？
事務局	そういう人は当日来ないから分かりません。でも心理的なハードルの高さはあります。皆さんが恵まれているから親が買ってくれるとかいうのは最近あるのかもわからないんですけども、一方自分でバイトして学費を払うような苦学生もいて、帰って来るのもお金かかる、スーツも買わないといけないとなると、もう参加しなくていいか、という話になります。でも友達には会いたいたいというのは絶対あるから、少しでもそういうハードルを下げることはいいことかと思っています。
委員	であれば、もう少し広く、「服装に拘らず皆さんが来やすい成人式ってなんでしょうね？」ぐらいの問い掛けをするのはどうですかね。その結果、服装みたいな観点に行く人もいるかもしれないし、もっと別の観点のことを言う人もいるかもしれない。問い掛け自体をもう少し広くすれば、結果繋がってくると思います。
事務局	そうですね。そこを考えてもらうプロセスが大事なかなと思っています。あまり言いすぎると、こちらの価値観を押し付ける形になるので、そこ

	を若い人に考えてもらいたいです。
会長	みんなが参加したいと思えるような成人式にしたいですね。ありがとうございました。次の報告に移らせていただきます。令和 7 年度丸亀市民学級についてご説明をお願いします。
事務局	(事務局説明)
会長	ありがとうございます。私のほうから、まなびらんど（生涯学習センター）が無くなることでハード面のところがかなり減少していきまして、市民学級もどんどん縮小されていきます。新しい市民会館シアターマドができれば、増えていくだろうとは思いますが、縮小するとそのまま縮小し続ける傾向が割とあるので、やはり丸亀市が生涯学習を進めていく、社会教育を発展させていくっていう視点は揺るがせないでいただきたいなと感じております。是非皆さんも、どんな講座かっていうのを見に行く程度でもいいので、ご参加いただければと思います。
事務局	今回ご紹介する講座が 2 つありますが、1 つ目の「まるがめまなび文化通路」はテーマを提供するような「こんな講座ありますので来てください」ではなくて、自分たちで学びの場を作ってみようっという一環でやることです。これはあくまでサンプルとして、「こういう風な切り口で考えてもらおうと、自分で講座を開くこともできますよ」というような、あくまでサンプルの例として挙げています。サンプルで何か作り方を教えるよりも実際に話を聞いてみようということで、いわゆる考古学と生活みたいな視点で話をしていただけます。その視点を教えていくのがこのサポーター養成講座です。 2 つ目の京極町の交流講演会は、実は平成 28 年の 10 月に丸亀市教育長が親と子の締結をして、来年度 10 周年になります。今までは、京極町の子どもが丸亀に来る、丸亀の子どもが京極町に行く、という交流でしたが、大人も丸亀の方へ行きたいというご意見が多数あって、そういう機会にならないかと京極町の方から申し出がありました。それなら、それぞれに講師を派遣して、丸亀のことを京極町で、京極町のことを丸亀で話しましょうということで、この交流講演会が実現しました。ちなみに 7 月の 16 日に私が京極町に行って色んなこと喋ってまいります。それが京極町の皆さんにとって丸亀を知るきっかけになればいいと思います。 それから逆に、京極町の方、元教育長さんですけども、この方が来ら

	れ、京極と丸亀の繋がりをお話いただくということで、丸亀の人たちも丸亀と京極の関係から、丸亀自身のことも学ぶ機会に繋がっていくんじゃないかなと感じています。 場所はマルタスです。是非お越しいただけたらと思います。
会長	ご質問はもう良いでしょうか？時間も迫ってきましたので、5 番目のその他について、事務局の方から何かございますか？
事務局	先程も申し上げましたが、生涯学習センターと丸亀市児童館が 5 月末で閉館となりました。5 月 31 日に閉館式典を行い、100 人を超える方が来ていただきました。児童館利用者代表のお子さんや、クラブの代表者さん、少年少女合唱団による合唱、市民吹奏楽団による演奏で幕を閉じました。 来週から解体作業に移ることになっています。先ほど申し上げましたが、代替施設として、旧土居保育所が「まなび舎土居」という名前で 7 月 1 日から開設されます。2 階が丸亀市の児童館となります。 本町のギャラリーが「まちなかギャラリー」として展示を開催するようになりますのでお知らせします。
会長	ありがとうございます。「まなびらんど」って、本当にたくさんの方がご利用になっていて、それぞれの思いが詰まっているだろうなと、しみじみ思いました。 今後は、市民会館がそこを担って行って頂けたらと思います。 委員の皆様の方から何かございますか？よろしいでしょうか？無いようですので議事進行を、事務局の方にお返しします。
事務局	議長、ありがとうございます。最後に、現在ご就任いただいております社会教育委員の任期が平成 7 年 6 月 30 日を持ちまして満了となります。課長よりお礼申を申し上げます。
事務局	改めまして、2 年間本当にお世話になりました。ありがとうございます。 次期も引き続いて、この社会教育委員の会は存続して行きます。新しい計画や新しい施設が出来ることもありまして、私どもとしてもかなり力を入れやっついていかないといけないと思っています。 先程会長からもありましたが、世の中のニーズとして、個人の幸せの部

事務局	分と、一方で社会とか地域全体の幸せ、幸福感みたいなものをこの学びを通して作っていくことになろうかと思います。 「まなび文化課」という名になったのも 1 つの契機です。まちづくりのベースにあるのが「学び」ではないかなという風に思っていますので、多様な皆様のご意見をいただきながら、計画も作り事業の方も進めて参りたいと思っております。 これで任期は終わりますが、引き続きお力添えを頂ければと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。ありがとうございました。 以上で丸亀市社会教育委員の会を終了いたします。委員の皆様大変お疲れ様でした。ありがとうございました。
-----	---